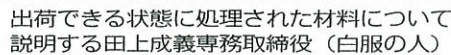
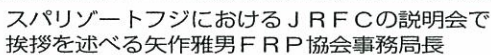


同窓学会は、環境・リサイクル研究部会が「高度なりサイクル技術を有する事業所を数回にわたって実施する企画の一環として実施したもので第1回・日立化成工業(株)下館事業所の「FRPリサイクル実用化試験設備」(平成二十二年九月)、第2回・住友エーライト(株)藤枝工場の「フエール樹脂リサイクル技術実証プラント」(平成二十三年二月)、第3回・パナソニック電工(株)当時、先行技術開発研究所の「複合材料リサイクルパイロットプラント」
--



メルテックのプラント見学

J F R C の見学後、次の見
 手先であるメルテック(株) (栃
 木県小山市大字築三三三三
 一九、電話〇二八五―四九局
 〇八〇番) に向かう。
 直ちに二階会議室に案内され、社は、明治十七(一八八四)
 高山幸彦常務取締役から「当
 年に鉱山製錬会社としてスタ
 ートした」と説明があった。



元

長や関沼光男製造課長らの案内で、①原料灰の受入れ、②原料灰の乾燥、③タドン状原料(リケット)の予備成形、④一五〇度での溶融、⑤直徑三十 χ 、厚さ十 χ 位のスラックに成形して徐冷、⑥破碎して人工骨材化、されるまでの一貫システムのプラント(幅約四十 χ 、全長百 χ)を約三十分かけて見学した。

その過程で、①溶融炉の生成可燃ガスは二次燃焼炉で完全燃焼させ、さらに急速冷却

ートした同和鋳業(株)・現DOWホールディングス(株)のグループ企業として、都市ごみや産業廃を焼却してできる焼却灰を原料に、天然の安山岩と同等の性能の人工骨材(碎石)化したり、焼却灰に極く微量含まれる貴金属を溶融抽出するようなビジネスをやって、ごみから資源の有効活用を図っている。これから工場を見学していただいて、皆さ

月間600ト処理するJFRC

月間

型浄化槽等）八・九割、その他（食器、トレイ等）を含めて三七〇～三九〇ポンド。熱可塑性樹脂では、ABS（ヘルメット、バンパー、食器、トレイ等）、ポリプロピレン（食器、結束バンド等）

ン等、熱可塑性樹脂（ヘル
メット、食器、トレイ等）が
計二〜三割である。

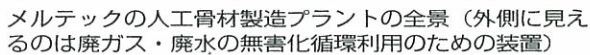
受廃材の処分費は、FR
P単品の場合一キ当り三五円
だが大型品（プール、覆蓋、
浮気橋等）は破砕料別途見積

るJFRC

がりサイクル「できること」を強くアピールする努力を一層強める必要がある。

また、市場に受け入れられる処理コスト、効率良い収集運搬のためにネットワークを構築する必要がある、ことなどを指摘していた。

挨拶を述べるメルテックの高山幸彦常務取締役
(左、右へ前田英人製造部長、関沼光男製課長)



んの事業に何等かのつながりができるような幸いであります。また、親会社のDOWAの方でも環境、リサイクル、廃棄物処理、汚染土壌の処理、貴金属リサイクル、主力は金、銀、銅、鉛、亜鉛、スズ、貴金属製だが、お役に立てるべきとあれば協力させていただきますという「要旨」との挨拶が述べられました。

次に、前田英人製造部長より、会社概要と毎日約一〇〇トンのペースで持ち込まれる焼却灰を溶融・固化・破碎して人工骨材にするプラントのフロー図を説明するVTR（約十五分）の上映および補足説明（①受入れ焼却灰の八〇％が自治体からで残りの二〇％が産業、②毎日処理する一〇〇

無害化し、清浄な空気として排出する、②全ての製造プロセスは建家内で行なわれ、工場内部は環境集塵装置によって作業環境がクリーンに保全されている、③スラッグの破碎は二重壁の室内で行ない、外部への騒音を遮断し、工場内及び周辺の住環境保全に万全を期している、④工場廃水は浄化して再利用する環境方式で一切外部へ出さないクロロスドシシステムを採用していることなどの環境保全に関する説明が行なわれた。

その後、再び会議室に戻って質疑応答が行なわれたうえ、十六時十分には社を辞去してJR宇都宮駅に戻った。